



竹内栖鳳《鴨雛》1937(昭和12)年頃 絹本・彩色 山種美術館

第 125 期

2023年4月1日～2023年9月30日

中間株主通信

株式会社ヤマタネ

証券コード：9305

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

第125期上半期（2023年4月1日から2023年9月30日まで）の決算概況等につきましてご報告申し上げます。



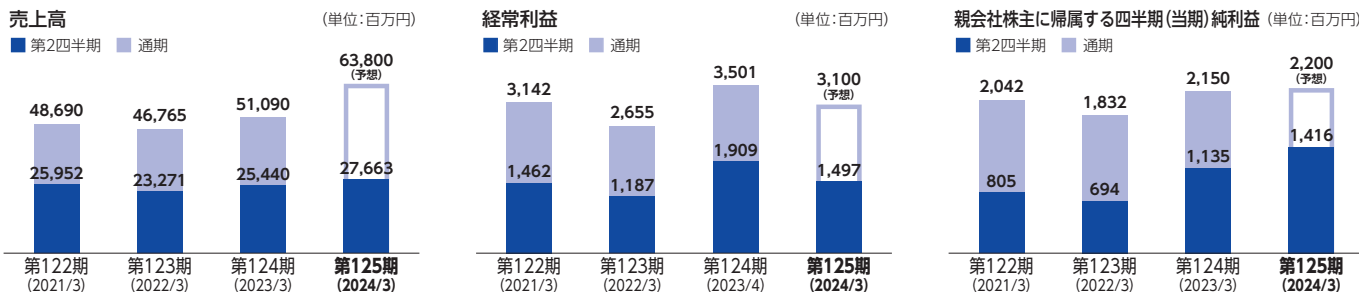
第125期（2024年3月期）上半期実績と通期見通しについて

第125期上半期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5月より5類へ移行され、社会経済活動の正常化が進み景気は緩やかに回復いたしました。一方で、エネルギー価格や資源価格の高騰等による国内物価の上昇の影響等、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況下におきまして物流部門の国内業務においては、倉庫事業での保管残高は前年同期を上回って推移したものの、物価高等の影響もあり一部荷主の取扱いが落ち込み、入出庫の取扱いトン数が前期を下回って推移いたしました。一方、国際業務においては、海外引越を中心として取扱件数は前年同期を上回り堅調に推移いたしました。食品部門では、コロナ禍からの経済回復を受けて中食や外食向けを中心に需要復調が続いたことから、精米販売が前年同期を上回って推移いたしました。

この結果、売上高は276億63百万円（前年同期比8.7%増）となりました。しかしながら、営業利益は人件費の増加、物流部門における外注コストの増加、また、M&Aに伴う費用計上等があり18億31百万円（同6.0%減）となり、経常利益においてもM&Aに伴うシンジケートローン手数料の計上等があったことから14億97百万円（同21.5%減）となりました。一方で親会社株主に帰属する四半期純利益は、一部業務システムの減損損失はあったものの、

連結業績ハイライト



さいたま市岩槻区に保有していた遊休不動産の売却による固定資産売却益等により14億16百万円（同24.7%増）となりました。

2023年11月2日に公表いたしました「2024年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」において記載のとおり、2024年3月期連結会計年度の業績につきましては、2023年10月2日に株式会社ショックカイの全株式を取得し子会社化したこと、また食品部門において精米販売が好調に推移していること等を勘案し、売上高は638億円（前年同期比24.9%増）、営業利益は34億円（同5.3%減）と業績予想を上方修正することといたしました。一方で、第2四半期連結会計期間で計上したM&Aに係る資金調達におけるシンジケートローン手数料の計上等により営業外費用の増加が見込まれることから、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益については業績予想を据え置いております。

2 第125期（2024年3月期）上半期の取り組みについて

本年4月より、事業戦略部とデジタル推進本部を新設し、長期ビジョン「ヤマタネ 2031ビジョン」及び中期経営計画「ヤマタネ 2025プラン」を達成すべく、取り組んでまいりました。事業戦略部においては、8月29日に開示いたしましたとおり、株式会社ショックカイの株式取得（子会社化）の検討・交渉を進め、10月2日に子会社化を完了いたしました。ショックカイの子会社化により、ビジョンの中で「チャレンジ領域」と定めた「食の安定供給ソリューションと循環資源ソリューションの提供」を実現できるものと考えております。デジタル推進本部は当社のDX化を進めるべく、物流部門と協働しながら物流基幹システムの刷新に注力しております。また、リスクが高まっている情報セキュリティの強化にも取り組んでおります。

不動産部門においては6月に新たな収益物件として、本社最寄り駅の門前仲町駅に直結する賃貸不動産を取得いたしました。

食品部門では、株式会社フェイガーとの業務提携契約の締結、株式会社日本総合研究所との共同研究開始など、「産地の続くを支える」に向けた外部との協働にも力を入れております（詳細は、P4 サステナビリティをご覧ください）。

当社は、経済合理性の低さや担い手不足などの問題から存続の危機に瀕している棚田の保全活動に取り組んでまいります。株主の皆様にもご理解を賜りたく存じます。

11月14日開催の取締役会にて、株主優待制度の変更（拡充）について決議いたしました。詳細につきましては、本冊子のP6とHPにて公開されているニュースリリースをご覧ください。

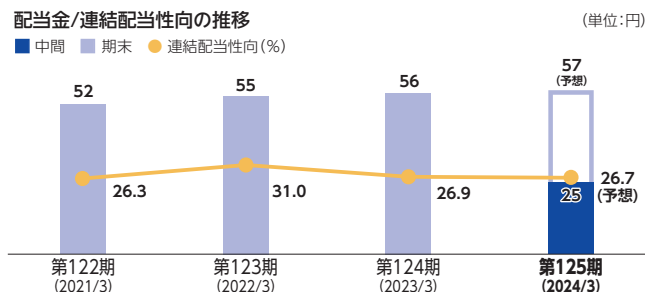
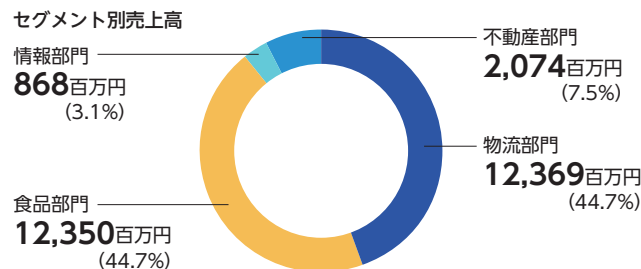
当社は2024年7月3日に創業100周年を迎えます。「多様な人財が集い、社会に貢献する力を生み出す」というパーパスのもと、全てのステークホルダーの“[続く]を支える。”という想いを込め、次の100年に向けてより豊かな社会づくりにチャレンジしてまいります。今期は、社内の有志で周年事業実行委員会を立ち上げ、周年サイトの公開やデジタル社史の制作など、100周年に向けた様々な施策を検討しております。これまで、当社を支えていただいた全てのステークホルダーの皆様へ感謝の意を伝えるとともに、企業価値向上とパーパス実現に向けて取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、何卒一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2023年12月

代表取締役社長

山崎元裕

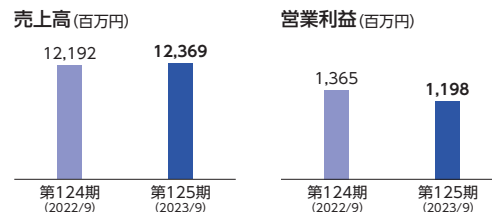


安定配当の基本方針を維持しながら株主の皆様への利益還元を強化するため「累進配当」を行うこととしております。

物流部門

■ 売上高 12,369百万円 ■ 営業利益 1,198百万円

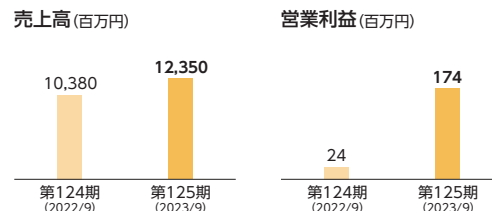
物流部門では、国内業務においては、倉庫事業での保管残高は前年同期を上回って推移したものの、物価高等の影響もあり一部荷主の取扱いが落ち込み、入出庫の取扱いトン数が前期を下回って推移しました。国際業務においては、海外引越を中心として取扱件数は前年同期を上回り堅調に推移したことから、売上高は123億69百万円（前年同期比1.5%増）となりました。一方で、コスト面においては庸車費用や外注作業費用等が増加する状況となり、営業利益は11億98百万円（同12.2%減）となりました。



食品部門

■ 売上高 12,350百万円 ■ 営業利益 174百万円

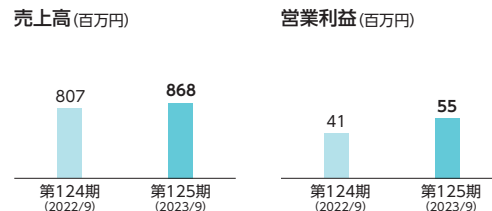
食品部門では、コロナ禍からの経済回復を受けて中食や外食向けを中心に需要回復が続いたことから、精米販売は、量販店向け、外食向け販売共に前年同期を上回って推移し、37千玄米トン（前年同期比20.2%増）となりました。一方で、玄米販売は、需給が引き締まったことによる米価上昇で市場流通量が減少した影響を受け、10千玄米トン（同26.4%減）となり、総販売数量は47千玄米トン（同5.7%増）となりました。この結果、売上高は123億50百万円（同19.0%増）、営業利益は、販売が堅調に推移したことに加え、印西精米センターでの太陽光発電システム活用による動力費の抑制や同センターの減価償却費の費用減等により、1億74百万円（同623.6%増）となりました。



情報部門

■ 売上高 868百万円 ■ 営業利益 55百万円

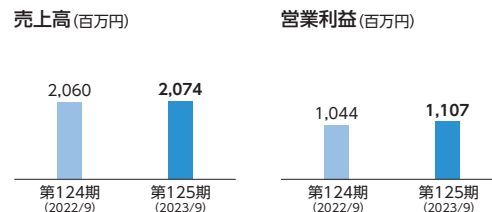
情報部門では、汎用機基盤の開発、運用業務は堅調に推移し、また、顧客のインボイス対応へのシステム開発請負案件等もあり、売上高は8億68百万円（前年同期比7.6%増）となり、営業利益は55百万円（同32.5%増）となりました。



不動産部門

■ 売上高 2,074百万円 ■ 営業利益 1,107百万円

不動産部門では、賃貸用不動産を新規取得したこと等により、売上高は20億74百万円（前年同期比0.7%増）となりました。営業利益は、KABUTO ONEの不動産取得税が減少したこと等により、11億7百万円（同6.0%増）となりました。



当社グループは、重点テーマに掲げる「環境に配慮した事業活動の推進」と「持続可能なコメ調達の推進」において2030年目標を達成すべく取り組んでおります。

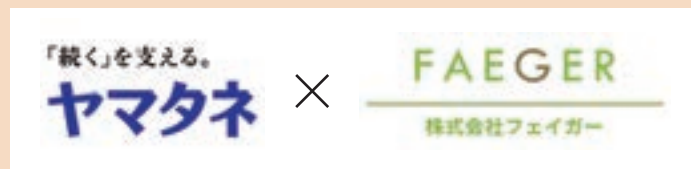
持続可能なコメ調達の推進



環境に配慮した事業活動の推進



当社は「環境や社会に貢献することが収益に繋がる農業の仕組み」を構築するため、株式会社フェイガー（本社：東京都港区、代表取締役：石崎貴紘、以下「フェイガー」）と業務提携契約を締結し、株式会社日本総合研究所（本社：東京都品川区、代表取締役社長：谷崎勝教、以下「日本総研」）と共同研究を開始することといたしました。



フェイガーは、農業由来カーボンクレジットの生成・販売を行っており、農家の方々の脱炭素の取り組みの支援及びカーボンクレジット活用による収益化を行う日本初のスタートアップ企業です。

稲作の過程で、水田の水を抜く期間（中干し）を延長することで、メタンガスの発生量を抑制できることが各種機関の研究で明らかになっており、中干し期間を延長した水田で作られたおこめにカーボン

クレジットを発行することで、農家の皆様の収益確保を目指しております。今年度は、JA新みやぎから6名のコメ農家に参同いただき、圃場計約40haで取り組みを開始いたしました。

日本総研は、農業・農村の再生に向けたコンセプトを提唱し、その実現に向けて、新たな農産物ブランドの構築や、多機能型農業ロボットの事業化などの取り組みを行ってきました。2021年度からは、農産物の内包する多様な付加価値を可視化して消費者に伝達するCAV (Communication of Agricultural Value) モデルを提唱し、その具体化に向けた研究や農業生産者などと連携した検証を進めています。



共同研究では、当社がフェイガーと取り組んでいるメタンガス抑制など農産物の有する環境面・社会面における様々な付加価値を可視化（スコア化）し、需要家・消費者に伝達する手法の構築に向けて、共同で実証を行ってまいります。

当社は、産地や様々な企業・団体と協働しながら「産地の続くを支える」べく取り組んでまいります。

株式会社ショクカイの株式取得（子会社化）に関するお知らせ

当社は、2023年10月2日に株式会社ショクカイ（本社：東京都台東区、代表取締役社長：松本朋廣、以下「ショクカイ」）の全株式を取得し、子会社化いたしました。



ショクカイは冷凍食品を中心とした弁当給食向け業務用食品の卸売事業では業界トップシェアを誇り、食品メーカー等との強固な仕入基盤、顧客ニーズに対応した商品開発力に加え、効率的な物流の実現により価格競争力のある商品を北海道から九州・沖縄まで多くの取引先へ安定的に供給しております。また、食材の仕入では食品ロスの削減に積極的に取り組んでおります。さらに、周辺領域における事業強化・拡大を目指し、高価格帯商品の開発やデリカ事業の強化、食材宅配事業向けの冷凍弁当・ミールキット向け食材等の取扱い拡大に取り組んでおります。

名 称	株式会社ショクカイ
所 在 地	東京都台東区東上野五丁目2番2号
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 松本朋廣
事業内容	食品及び同原料、加工食品の輸入及び販売
資 本 金	9,000万円
設立年月日	2018年1月24日

2022年12月期 業績

売 上 高	17,412百万円	営 業 利 益	760百万円
-------	-----------	---------	--------

ショクカイへの資本参加を行うことにより、当社グループでは、新たなソリューションの実現が可能となり、食品セグメントで掲げている「産地の続くを支える」においても、ショクカイのもつ全国の販売網は大きく貢献できるものと考えております。また、ショクカイのデリカ事業においては、当社の取引先である量販店等の事業の強化、拡大に資するサービスを提供できるものと期待しております。両社が相互に持つ経営資源を最大限に活かし、それぞれの事業領域の拡大とサプライチェーンの強化に取り組むことで、当社グループの目指すバリューである「社会に安心と安全、効率性を提供する」の実現を図り、地域社会や地球環境を含む全てのステークホルダーに対し長期的な価値を創出してまいります。



株主優待制度 変更（拡充）に関するお知らせ

当社は、2024年3月末基準日より、株主優待制度を変更（拡充）することといたしました。詳細は下記をご覧ください。

3月末基準 優待内容

株数（株）	株主優待商品
300株以上	ジュース（2本：1,100円相当）または棚田米を原料とした日本酒（一合瓶2本）の選択制
500株以上	ジュース（2本：1,400円相当）または棚田米を原料とした日本酒（四合瓶1本）の選択制
1,000株以上	ジュース（3本：1,850円相当）または棚田米を原料とした日本酒（四合瓶2本）の選択制

9月末基準 優待内容

株数（株）	株主優待商品
100株以上	山種美術館カレンダー
300株以上	山種美術館カレンダー、厳選こだわり米2kg
500株以上	山種美術館カレンダー、厳選こだわり米5kg
1,000株以上	山種美術館カレンダー、棚田米10kg、田植え・稲刈り体験（※申込制）

※申し込み多数の場合には抽選とさせていただきます。

この度、株主優待制度を変更するにあたり、当社は新潟県十日町市にある星峠の棚田オーナーとなりました。

日本の農業の象徴である棚田は、農産物の供給にとどまらず、国土の保全、水源の涵養など、様々な機能を有していますが、経済合理性の低さや担い手不足などの問題などにより、荒廃の危機に瀕しています。

そうした現状を踏まえ、新しい株主優待制度を導入し、株主の皆様と共に棚田保全の活動をスタートします。当社株式を1,000株以上保有していただいている株主様には星峠で収穫されたおコメを10kgお届けいたします。また、ご希望の方は5月に田植え、9月に稲刈りを体験いただくことが可能です。当社は重点取り組みテーマとして掲げている「地域コミュニティ及び生産地と農業の発展」を実現すべく、今後も取り組んでまいります。

なお、新株主優待制度の詳細につきましては、当社HP(<https://www.yamatane.co.jp/>)をご覧ください。



▲星峠の棚田（新潟県十日町市、2023年5月撮影）



◀当社HPはこちらからもご覧いただけます。

日常が大きく揺らぎ、不安定な世界情勢が続く今、「マインドフルネス」、「ウェルビーイング」、「チル」といった心の動きを意識する言葉が時代のキーワードとなっています。その背景として、自分自身の内面と向き合い、心を癒やすことが求められているといえるでしょう。このたび山種美術館では、日本美術の鑑賞を通して、心が癒やされる展覧会を開催します。

伊藤若冲や長沢芦雪が描いたゆるくてかわいい姿。ユーモアあふれる作品に、自然と笑みがこぼれます。また、愛

らしい動物や子どもを描いた作品からは、対象をいとおしむ画家の愛情が伝わってきて、見た目のかわいらしさに心が和らぐとともに、温かな気持ちになります。そして、優しく包み込まれるような自然を描いた川合玉堂の作品や、心地よい音を想像させる上村松園の作品を前にすれば、気持ちがりラックス。さらに、作品の制作が画家自身の心を癒やすことになった例もご紹介します。

心が安らぐ日本美術が並んだ、心地よい展示室で、癒やされるひとときをお過ごしください。

展覧会名 【特別展】癒やしの日本美術
—ほのぼの若冲・なごみの土牛—

会期 2023年12月2日(土)～2024年2月4日(日)

会場 山種美術館

主催 山種美術館、日本経済新聞社

開館時間 午前10時～午後5時
(入館は閉館時間の30分前まで)

休館日 月曜日
[1/8(月・祝)は開館、1/9(火)は休館、
12/29(金)～1/2(火)は年末年始休館]

入館料 一般1,400円・中学生以下無料(付添者の同伴が必要です)

【冬の学割】大学生・高校生500円
※本展に限り、通常1,100円のところ割引。
入館日時のオンライン予約ができます
(詳細は当館Webサイトをご覧ください)。

お問い合わせ 050-5541-8600 (ハローダイヤル)

URL <https://www.yamatane-museum.jp/>

今後の展覧会

【公募展】

Seed 山種美術館 日本画アワード 2024
—未来をになう日本画新世代—
2024年2月17日(土)～3月3日(日)

【特別展】

花・flower・華 2024
—奥村土牛の桜・福田平八郎の牡丹・梅原龍三郎のばら—
2024年3月9日(土)～5月6日(月・祝)

●株主優待

当社は、2024年3月末基準日より、株主優待制度を変更することいたしました。詳細は下記をご覧ください。

3月末基準 優待内容

株数(株)	株主優待商品
300株以上	ジュース(2本:1,100円相当)または榎田米を原料とした日本酒(一合瓶2本)の選択制
500株以上	ジュース(2本:1,400円相当)または榎田米を原料とした日本酒(四合瓶1本)の選択制
1,000株以上	ジュース(3本:1,850円相当)または榎田米を原料とした日本酒(四合瓶2本)の選択制

9月末基準 優待内容

株数(株)	株主優待商品
100株以上	山種美術館カレンダー
300株以上	山種美術館カレンダー、厳選こだわり米2kg
500株以上	山種美術館カレンダー、厳選こだわり米5kg
1,000株以上	山種美術館カレンダー、榎田米10kg、田植え・稲刈り体験(※申込制)

※申し込み多数の場合には抽選とさせていただきます。

●株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日 定時株主総会 毎年3月31日

期末配当金 毎年3月31日

中間配当金 毎年9月30日

そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人及び 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063

東京都杉並区和泉二丁目8番4号

三井住友信託銀行株式会社

証券代行部

(電話照会先) ☎ 0120-782-031

(インターネット) <https://www.smtb.jp/>

(ホームページURL) [personal/procedure/agency/](https://www.yamatane.co.jp/personal/procedure/agency/)

単元株数 100株

公告の方法 当社のホームページに掲載する。

<https://www.yamatane.co.jp/>

ただし、事故その他やむを得ない事由によ

って電子公告による公告をすることができない

場合は、日本経済新聞に掲載して公告する。

上場証券取引所 東京証券取引所

株式に関する住所変更等のお手続き及びご照会について

証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。
証券会社の口座をご利用でない株主様は、上記の電話照会先までご連絡ください。

特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といひます)を開設しております。特別口座についてのご照会及び住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。